

北中城村は、かつて中城の一部として長い歴史を歩んできました。かつて第二次世界大戦において、占領軍の施設によって村が南北に分断され、行政の執行に支障をきたしたことから、昭和21年(1946年)5月20日、中城村の北側に属した12行政区が分離して、新たに「北中城村」として誕生しました。

都市的な街並みを形成する中部圏域の中でも、緑に恵まれた風光明媚な自然、歴史的文化遺産に囲まれた「平和で、人と緑が輝くむら」として知られています。



女性長寿日本一の村

北中城村
OKINAWA KITANAKAGUSUKU



人と緑が輝くむら
「北中城」

喜舎場・仲順 歴史と文化の散歩道

喜舎場・仲順 歴史と文化の散歩道

1 キシャバ 喜舎場公民館

喜舎場原(キシャババル)の中央あたりに位置する現在の喜舎場公民館。旧盆の時期にはここでエイサーの練習が行われ、道ジュネーの出発地です。



2 ウフカー



喜舎場公民館近くにあるカー(井戸)。子どもが生まれた時には産水として、旧正月には若水として利用されていました。また、旧暦の5月15日(ウマチー)には集落内の各門中で拝まれていました。

3 ナカ マニドゥル 仲間根所

喜舎場村を創建した喜舎場公の直系にあたる家と伝えられています。現在でも字の重要な拝所となっており、喜舎場公例祭など様々な行事で拝まれています。



4 ヒヌカン 火の神



仲間神屋の西側にある拝所です。普天満宮への遷拝所といわれていますが、拝所の名称やどのような意味でここから遷拝するかなどの詳細は未だ分かっていません。

5 キシャバ 喜舎場の石獅子



喜舎場公園内にある琉球石灰岩で造られた石獅子です。以前は、集落の南西側の俗称ピンダマーチューから安谷屋の北側にあった「カニサン」と呼ばれていた大きな岩山に向かって掘えられていました。

6 キシャバコウ 喜舎場公の墓



喜舎場村の創設者の墓で、喜舎場公園の後方斜面の中腹にあります。『球陽』の外巻『遺老説伝』に「往昔、喜舎場公なる者有り、此の邑を創建す。」と記されています。

仲順 コース

1 EMウェルネス暮らしの発酵 ライフスタイルリゾート



東シナ海と太平洋を一望できる丘の上、古の時代から受け継がれた特別なロケーション。「発酵」をテーマに人と地球にやさしいサステナブルなホテルです。

2 チュンジュンウフシュ 仲順大主の墓

仲順大主は今から約700年前に仲順を統治していたと言われている人物で、人々から深く尊敬されていました。仲順大主の墓は、仲順集落の北側にあり、琉球石灰岩の岩根を掘り込んで造られています。



3 チュンジュン 仲順公園

エイサーの定番曲として知られている「仲順流り」の歌碑がある仲順公園。「仲順流り」とは仲順村の創始者である仲順大主にまつわる伝承を題材にした歌であり、エイサーが行われる旧盆には県内各地で聴くことができます。旧盆の仲順青年会による「仲順流り」は必見です。



4 ウタキ ナスの御獄



『琉球国由来記』によると、「ナスツカサ御イベ」呼ばれる髪が祀られており、安谷屋ノ口が祭祀を司っていました。奥の岩の上には、舜天・舜馬順熙・義本の三王を葬ったとされる墓があります。

5 ウナジャラウ ハカ 王妃御墓

舜天王統三代目、義本王(1206年~?)の妃の墓所と伝えられています。義本王を葬ったとされる墓は「ナスの御獄」にありますが、王妃御墓に葬られているという伝承もあります。



北中城村観光協会ホームページ



《一般社団法人 北中城村観光協会》
Tel.098-923-5888
mail info@kitapo.jp
〒901-2306 沖縄県中頭郡北中城村ヲイカ1番地

《一般道》那覇空港⇒国道58号線⇒国道30号線⇒村道仲順・屋原原線(約45分)
《沖縄自動車道》那覇I.C.⇒北中城I.C.⇒県道81号線⇒国道30号線⇒
村道仲順・屋原原線(約15分)
※「あやかりの社(生涯学習複合施設)」を目指すに便利です。



喜舎場・仲順 歴史と文化の散歩道



喜舎場・仲順

歴史と文化の散歩道

仲順
コース

喜舎場
コース

お手洗い

駐車場



北中城村観光協会ホームページ



EMウェルネス暮らしの発酵
ライフスタイルリゾート
東シナ海と太平洋を一望できる丘の上、古の時代から受け継がれた特別なロケーション。「発酵」をテーマに人と地球にやさしいサステナブルなホテルです。



喜舎場公民館
喜舎場原(キシャババル)の中央あたりに位置する現在の喜舎場公民館。旧盆近くになるとこでは喜舎場青年会のエイサーの練習が行われ、道ジュネーの出発地点となっています。
※駐車場とトイレは喜舎場公民館向かいの公園をご利用ください。



北中城村のテンプス(へそ)「喜舎場地区」

北中城村の中央部に位置し、役場や小学校、幼稚園などの公共施設、観光客が多く宿泊するホテルなどが集中しており、文字通り、北中城村の中心地となっております。

琉球史料「球陽」によると、喜舎場公によりシマ(村)が立ち上がり、この地域の住民は、喜舎場公の直系にあたる仲間家を喜舎場公

の根所として崇めております。旧暦9月18日には、字行事として、喜舎場公例祭を行っております。

喜舎場地域には、喜舎場公にまつわる遺産のほか、カー(井戸)やガンヤー(竈屋)など、沖縄の古き風習や暮らしを垣間見ることができます。



琉球歌劇「仲順流り」発祥の地「仲順地区」



旧盆間近になると、「仲順流り」の歌が聞こえてきます。この歌は、仲順地区(シマ)を立ち上げた仲順大主にまつわる話を題材に祖霊供養の歌として作られました。「仲順の教えは数々あるが、ありがたいお囃子も数え切れぬほどにある。仲順大主は果報な者で、三人の子どもに恵まれた…」亡くなった親を想う気持ちを、先祖の敬う心に重ねたエイサー節です。現在では、最もメジャーなエイサー曲のひとつとして知られています。

また、仲順地区には、地域の統治者となった「仲順大主の墓」や「琉球国由来記」で伝えられる「ナスツカサ御イベ」が祀られている「ナスの御獄」など、沖縄の古き歴史を知る遺産が点在しています。